

## 主観的に感じる時間の長さに影響する 香りの特徴と化粧品への応用

日本メナード化粧品株式会社 総合研究所 浅井 雛代

### 1. はじめに

近年、多くの女性が日常的に「時間が足りない」と感じている。株式会社Neautechの調査によると、約8割の女性がスキンケアに「もう少し時間をかけたい」など、美容の時間に不満を感じているようだ<sup>1)</sup>。時間をかけて丁寧にスキンケアを行うことは肌の健やかさを保つ上で重要であり、スキンケアは単に化粧品を塗布することによる肌への作用だけでなく、心理面に対しても様々な感情変化をもたらすことが知られている<sup>2)</sup>。故に、スキンケア中の時間に追われる感覚を低減し、スキンケアを充実した時間にする事ができれば、化粧品の効果や付加価値を高めることにつながると考えられる。

人が主観的に感じる時間（心理的時間）は、その時の心身の状態によって異なる。例えば、実際に経過した時間の長さが同じであっても、楽しい時間は短く感じ、退屈な時間は長く感じるように、その時の心理状態によって心理的時間は変化する。実際、心理的時間は人の感情や覚醒レベルによって変化することや<sup>3)</sup>、恐怖刺激は時間の経過を遅くさせることが報告されており<sup>4)</sup>、心理的時間を変化させるためにはその時の心理状態が重要であると考えられる。

我々は、心理状態に影響を与える要素として

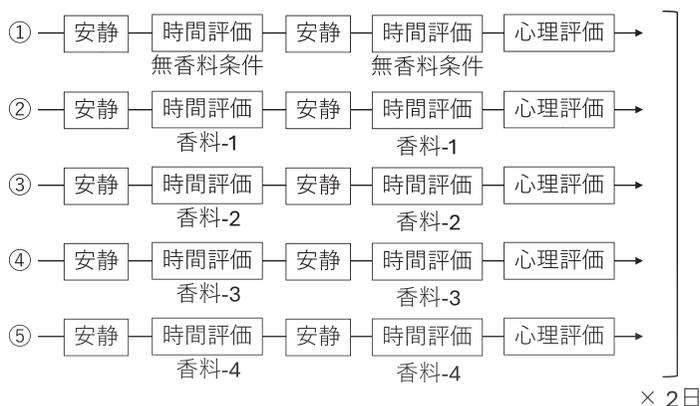
「香り」に着目した。化粧品開発において「香り」は重要な要素の1つであり、香りは人をリラックスさせたりリフレッシュさせたり様々な感情変化をもたらすため、心理的時間にも影響することが示唆される。これまでに、心理的時間が香りの種類や覚醒度の違いに影響されることが示されているが<sup>5) 6)</sup>、具体的にどのような香りの特徴が心理的時間に影響を与えるのかは明らかになっていない。

そこで、本稿では、心理的時間を変化させる「香り」について、以下の3つの検討を行った。すなわち「天然香料を用いた、心理的時間を速くさせる心理変化の探索」、「心理的時間を速くする香りの開発、検証」、「心理的時間を速くさせる香りのスキンケア製品への応用」について調査したので報告する。

### 2. 天然香料を用いた、心理的時間を速くさせる心理変化の探索

#### 2.1. 目的

化粧品の付加価値を高める香りを開発するため、心理的時間を変化させる香りの特徴を見いだすことを目的とした。香りの生体に対する作用については、嗜好性によって変化が異なることが報告されているため<sup>7) 8)</sup>、心理的時間は香り提示時の心理状態の影響が大きいことが想定される。そこで、



■図1 試験の概要

嗜好性の異なる複数種類の香りを用いて、それぞれの香りの提示により生じた心理変化を捉えることで、心理的時間を変化させる香りによる心理的特徴を明らかにすることを試みた。

## 2.2. 方法

日本人女性17名(25~56歳、平均年齢35.3歳)に対して、香りの特徴や分類が異なる8種類の天然香料(イランイラン、ジャスミン、フランキンセンス、ベチバー、ベンゾイン、レモン、ローズ、ローズマリー)と無香料(溶媒)条件に対して、香り提示中の心理的時間の評価と心理状態の評価を行った。試験は香料4種類ずつ、2日に分けて実施した。尚、香りを提示する順番は参加者ごとにランダムに割り当てた。試験の概要を図1に示

■表1 評価時間と心理的時間

評価時間	心理的時間 (主観的に感じる時間)
実際よりも長い 	速く感じる
実際よりも短い 	遅く感じる

切だと考えられた30秒間の「産出法」を用いた。

これ以降の閲覧を希望の場合は、本誌をご購読ください。